

支払調書・診療報酬合計書等から付表への転記

毎月の当座口振込通知書から転記することが原則だが、支払基金「支払調書」、国保連合会「診療報酬合計書」からの簡便な転記でもよい。

ただし、社会保険診療収入が5,000万円を超えた場合又は、雑収入を除く歯科医業に係る収入金額が7,000万円を超えた場合は租税特別措置法26条の規定により計算した金額を必要経費とすることはできない。

【表面 記入上の留意点】(表4)

「社会保険診療報酬」欄

「①基金事務所から支払を受ける社会保険診療報酬」

㊦「一般社会保険 決定点数」……内本人分点数と内家族分点数を合算して記入する(表示点数には公費併用分を含む)。

㊧「生活保護法 決定点数」……基金の毎月の当座口振込通知書(表1)から支払区分「12・生活保護」と「25・中国残留」の点数を年間合計して記入する。

「②国民健康保険診療報酬」

㊨「小計 決定点数」……「合計書」の国保、後期高齢者それぞれの合計欄から「府内分点数+府外分点数-過誤点数」を合算して記入する。

㊩「①支払基金分」・「②国保連合会分」の合計点数を「⑤計」の「決定点数」欄に記入する。

※介護報酬がある場合は「介護給付費等支払明細書(合計書)」の「①介護報酬額」欄の「介護サービス費等」の合計金額を総診療収入に含めて計算する。

「自由診療の収入等」欄

㊪「一般の自由診療 収入金額」……自費診療の他、後期高齢者医療歯科健康診査料、非指定医療機関の労災治療費、歯ブラシやフロス等の口腔衛生材料の販売収入、介護保険主治医意見書作成料等の年間合計額を記入する。

㊫「⑥計 収入金額(E)」……「一般の自由診療」等の金額を合算し記入する。

㊬「雑収入」欄……貴金属品の売却収入や新型コロナ対応補助金(雇用調整助成金、感染拡大防止支援金など)の合計金額を記入する。

表5 令和4年分 青色申告決算書(一般用) 損益計算書

Table with 4 columns: 科目, 決算額, 科目, 決算額, 科目, 決算額. It details income, expenses, and net income for a dental practice.

固有経費の区分対応方式

<事例>

本事例での青色申告決算書は次のとおり(表5)。

Summary table showing Social Security medical income (37,058,620), Free medical income (8,549,260), and Miscellaneous income (1,250,000).

収入合計 46,857,880円

必要経費合計(⑥+⑫)

Table listing necessary expenses: 25,245,397 (Total), 25,500 (Third-kind business tax), 4,347,490 (Outpatient technical fees), 2,653,810 (Insurance technical fees), 1,693,680 (Self-paid technical fees), 4,800,000 (Specialist remuneration).

表6 付表《医師及び歯科医師用》・裏面

Table 6: Back of the Schedule for Doctors and Dentists. It details the calculation of necessary expenses for free medical services, including formulas for calculating original costs, tax adjustments, and final net expenses.

速算表 (Quick Calculation Table): A table showing the calculation of necessary expenses based on social security medical income brackets and rates.